

# 松戸ロータリークラブ

【2010-11年度国際ロータリーテーマ】

地域を育み、大陸をつなぐ

Building Communities,  
Bridging Continents

[第2644回例会]

会 報

No.2643

2010年8月25日 発行

●四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- ① 真実か どうか
- ② みんなに公平か
- ③ 好意と友情を深めるか
- ④ みんなのためになるか どうか

●THE 4-WAY TEST

Of the things we think, say or do

- ① Is it the TRUTH?
- ② Is it FAIR to all concerned?
- ③ Will it build GOODWILL and BETTER FRIENDSHIPS?
- ④ Will it be BENEFICIAL to all concerned?



地域を育み、大陸をつなぐ

本日のプログラム

2010年8月25日(水)

卓 話

「会員増強について」

森田雅久 会員

次回のプログラム

2010年9月1日(水)

卓 話

「新世代のために」

川並芳純 会員

- 例会日 毎週水曜 12:30~1:30
- 例会場 伊勢丹松戸店本館11Fバンケットルーム  
TEL: 047-364-1111
- 事務所 松戸市松戸1281 ユニティビル2F  
TEL: 047-366-2266  
FAX: 047-361-2255  
URL: matsudo-rc.com  
E-mail: info@matsudo-rc.com

- 会 長 伊原 清良
- 会長エクト 常盤 映彦
- 副 会 長 加藤 栄
- 幹 事 松田 茂一
- 会 計 加瀬 仁
- 会報委員 松本 幸夫 申 澈権 太田原慎一
- 山田 達郎 澤田 正宏 土肥伸一郎
- 加瀬 仁 車田 善教 浅井 利明
- 三国 大吾

国際ロータリー第2790地区

2010-2011年度 ガバナー 織田吉郎 様



7月からガバナーを仰せつ  
かっております、銚子ロータ  
リークラブの織田と申しま  
す。

どうかよろしくお願いいたし  
ます。

現在地区内クラブを1つづ  
つ公式訪問させていただいております。

それは公式訪問がガバナーとしてみなさまにお伝  
えしなければならぬ情報、お伝えしたい情報を  
伝えることがお役目の半分、残りの半分は各クラ  
ブのスタイルに直接接して学び、他クラブにそれ  
を伝えてゆく役割がお役の半分と心得ているから  
です。

会長・幹事懇談会やクラブ協議会で多くのロータ  
リアンの皆様との意見の交流を通じて、実に多く  
のことを学ばせていただいております。

レイ・クリンギンスミス会長の掲げるテーマに  
ついてお話します。Building Communities ,  
Bridging Continents「地域を育み、大陸をつなぐ」  
これまで会長のテーマの多くはロータリアンに向  
けて発せられたものでした。ここ5年間を見ても  
「超私の奉仕」「率先しよう」「ロータリーは分か  
ちあいのこころ」「夢をかたちに」「ロータリーの  
未来はあなたの手の手に」といった具合です。そ  
こでクリンギンスミス会長は一般の人にも理解で  
きるテーマ、ロータリーの使命を表し、業績を強  
調できるようなテーマにしたいと考えました。会  
長はテーマについての話をする時必ず引用するの  
がロータリーの中核的5つの価値観です。「奉仕」  
「親睦」「多様性」「高潔性」「リーダーシップ」こ  
の5つは同等の比重を持って分かちあう必要があ  
ると表現されます。

それは、ロータリアンは活動を展開するにあたっ  
て 奉仕のこころにかなっているか 親睦を深  
めることができるか 人々は多様な文化や価値

観を持っていることに配慮しているか 高潔な  
人間性を高めることができるか リーダーシッ  
プを磨くことはできるか、この5つのチェックポ  
イントで常に活動を修正しながら「地域を育み、  
大陸をつなぐ」活動を展開してほしいということ  
だと私は理解しています。

また、クリンギンスミス会長が四大奉仕という原  
則を大切にすることは、2010 - 2011年度会長賞の  
分類を見れば一目瞭然です。「ロータリーの綱領」  
をもってロータリー運動の原則とする視点が見事  
に貫かれていてとても分かりやすく親しみが持て  
ます。

さて、私にいただいた残りの20分で皆様に1つ  
のことだけをお伝えします。それは「自分のクラ  
ブは自分で守る」という自治のこころを磨いてほ  
しいということです。

今日本のロータリーの会員減少に歯止めがかかり  
ません。世界全体ではここ10年間を見るとほんの  
わずかですが増加しています。経済先進国と途上  
国をグループ分けしてみると先進国の後退とそれ  
を補う途上国の勃興を見て取ることができます。  
この1年間ではアメリカの落ち込みをインドが補  
い、日本とイギリスの落ち込みを韓国が補うとい  
う形になっています。何故先進国が減少を重ね、  
一方で途上国がそれをカバーする勢いを持ってき  
たのか、先進国全体の中で何故日本だけが突出し  
た減少を続けているのか、それを正しく分析する  
ことなくやみくもに会員増強を叫んでも増強で  
きるものではありません。

日本のロータリーはどうしてしまったのでしょ  
うか。ただ単に好景気による拡大、長引く不況によ  
る減少、それだけなのでしょう。進化に乗り遅  
れてしまったのでしょうか。あるいは進化どころ  
か退化を重ねている状況に嫌気がさして退会者が  
続出したのでしょうか。ロータリーの現状を進化  
と捉えるか退化と考えるか、もう既にそこから意  
見の分かれるところです。

どんなにロータリーが変質してもそれは時代の要  
請するところの進化なのだと考える人々がAdapt  
or Perish( 適応しますかそれとも絶滅しますか？ )  
を錦の御旗に掲げて変化しなければ恐竜のように  
絶滅しますよと警告します。しかしこれはあくま  
で「変化することは進化することだ」という根拠  
に乏しい前提によるものです。ロータリーの歴史

を辿ってゆく過程で「素朴なスタート」から「しっかりした理論づけの時代」そして「無原則的拡大の時代」へと転換してゆく姿をトレースして気付くことは、ロータリーは「無原則的拡大の時代」の入口あたりから明らかに退化しているということです。時代に適応することは時代の流れに乗って会員を拡大することだということにすり替えてしまっています。折からIT化=進化という錯覚に流されてしまっているのです。日本のロータリーの衰退は、ロータリーの変質による魅力の喪失にあると考えたほうが問題の本質に迫りやすいでしょう。

お手元の資料をご覧ください。

この日本のロータリーの危機を私は3つの要素によるものと大別しました。

1つは国際ロータリーの指導方針によるもの、2つ目は日本の社会が独自に抱えている問題、そして3つ目は私たちのロータリークラブ自体の問題です。

今日は時間的制約がありますので、それぞれの項目から代表的な問題のみをお話することにします。

まず国際ロータリーでは中央集権化が進んでいることです。1992年の手続要覧を見て私は大変驚きました。それまでCentral Office という名称だったエバンストンの世界本部がWorld Headquarters という名称に変わったのです。司令部、これほどロータリーに相応しくない名称はありません。平然とこんな名称変更をする感覚に疑問を持ち、以来、国際ロータリーの方針をより注意深く見るようになりました。「ロータリーのシステムの要はクラブの自治にある」と言ったのはジョン・ケニー直前会長です。「司令部」と「自治」これは相対する概念です。

国際ロータリーが進めているグローバルスタンダード化（CLPの推奨）は世界のクラブを均質にしようとするもの、世界のクラブをボランティア団体として一元化し、上意下達で集団の生産性を高めることを狙っています。世界中の花園をすべてバラの花だけにしておこうということです。ロータリーは各国、各民族、各地方に生まれてそれぞれ美しく花開いた文化や伝統や情緒、その国特有の美しい花を大切にしておいてゆくロータリーでなければなりません。効率化、画一化を進めてはいけません。ドイツ人はドイツ人のように、アメリカ

人はアメリカ人のように、ペルー人はペルー人のように、そして日本人は日本人のように考え、行動して初めてロータリーが国際団体としての意味があるのです。

では何故国際ロータリーはグローバルスタンダード化を推進しようとするのでしょうか。

RIの打つ手の全ては会員を増やすこと一本に絞られていて、そのためには原則に無頓着、ほとんど「なりふり構わぬ」という形容がぴったり当てはまります。

国際ロータリーの問題として今1つ「ボランティア団体化の推進」を挙げます。これは会員増強のためのグローバルスタンダード化と表裏一体をなすものです。国際ロータリーは2017年のロータリー財団100周年に向けて大きな成果を求めています。そのためにはロータリー単独でできることは限られていますから広く募金を展開して大きな資金を得て、大きな成果をあげようとしています。そのためには分かりやすいプログラムでなければなりません。ウォールストリートジャーナルが何年か前に「ロータリーの地道な活動はノーベル平和賞に値する」という一文を掲載しました。会員一人一人が職業倫理を高揚してもその活動は見えませんがノーベル賞はとれません。End Polio Now ポリオ撲滅のように大きな目標を打ち立て、それに向けて一致団結している姿こそがノーベル賞への道だと考えています。皆さんにご協力をいただいているポリオ撲滅、この運動自体はこれまでキャンペーンを展開しなかったら500万人ともいわれる子供がポリオにかかっていたらと言われていたわけで、素晴らしい成果を収めています。一方で組織論としてはロータリーを考える時、ロータリーを変質させる役割を果たした主役でもあるのです。

次に私たちのクラブを直接的に取り巻く日本の社会の問題に移ります。

1つは経済の市場原理主義による社会の荒廃が進んでいます。実体経済とはかけ離れたマネーゲームによって、国家や社会のことなど考えることもなく、自分の利害損得だけで行動する人々、正直者が正しく報われることのない社会に変貌し、職業奉仕を大儀とするロータリアンは無力感を味わっています。

今1つは文化的底力（ローカリズム）の衰弱です。実はこれが日本ロータリーの危機の最も中心

的要素だと私は考えています。日本人はおしなべて祖国に対する誇りも自信も失ってしまった。そしてそれによって日本人は大局観と教養を失ってしまった。それ故グローバルイズムにとめどなく流されてしまう。国際ロータリーの方針、つまりグローバルスタンダードに無条件で飛びつく。自分の頭で考えること、つまりローカリズムを簡単に放棄してしまうのです。かつて鎖国時代の日本は世界的に見ればローカリズムの標本のような世界です。その江戸時代に実に強固な文化的底力を見ます。明治から一気に日本が近代化を成し遂げたのは江戸時代にその下地があったからという見方を否定する人はまずいません。

江戸末期、日本の人口3500万人に対して寺子屋15000ヶ所、識字率は侍で100%。庶民男子70%、女子20%。江戸市中では70%の識字率であったといわれています。当時世界の中心を自認していたロンドンの識字率は30%でした。幕末開国時、日本を植民地化しようとしてやってきたイギリス人は、江戸市中で庶民が瓦版をまわし読みしているのを見て植民地化をあきらめたといえます。長い間鎖国をしていたにもかかわらず世界的に飛びぬけていた文化レベル、「武器」でも「侍」でもなくこの「文化」、つまりローカリズムが国を護ったことは実に示唆に富んでいます。私達は江戸人の持っていた文化の貯金を使い果たしてしまったのでしょうか。今多くのクラブはグローバルスタンダードに無原則的に流され続けています。そんなロータリーに嫌気がさして退会してゆく会員は少なくありません。

日本社会の問題の最後は我慢力の衰退です。私は戦後生まれです。小学校時代、東京にあっては貧困は身近でした。ボロを着て鼻をたらしお腹を空かせた友達がいて、学校を休みがちな彼らを誘いに行くのが私の朝の日課でした。今思えば身近な貧困は私に他人の不幸に対する敏感さを養ってくれた最大の教師でした。みんな仲良く生きてゆくためには我慢が必要なことを皆が知っていて互いに助け合う強い絆がありました。今は集団の中で我慢するより集団を離脱して浮遊する気楽さを求めるようになってしまいました。登校拒否や会社に縛られたくない派遣社員の増加、離婚も一種の集団離脱です。ややこしい人間関係を嫌う人々は当然ロータリー集団に入ろうともしません。我慢力が衰弱していった原因は私達

が飢餓から解き放たれ、飢え死にすることのない社会になったからだと考えています。考えればこれは人類500万年の歴史の中で始めて経済先進国に訪れた現象です。日本だけでなく先進国ロータリーが会員を右肩下がりに減らしていることと我慢力の衰弱は大きなかわりがあるのではないのでしょうか。

駆け足で日本のロータリークラブの危機の外的要因を見てきました。

日本のクラブ自身の問題はこの後のクラブ協議会で話させていただきます。まず今は、

先進国ロータリーは、とりわけ日本のロータリーは未曾有の危機にあるという認識を持つこと

そして危機の原因を分析し、できることから改善してゆこうと努めること

自分たちのクラブは自分たちで守るという自治のところに目覚め、研ぎすましてゆくこと  
国際ロータリーの打ち出すグローバルスタンダードは必ずしも日本のクラブを発展させない。そればかりが衰退させてゆくこともある  
と知ること

をご理解くだされば幸いです。

最後に私が掲げさせていただいた地区のテーマ「スタイル（様式）を磨こう」にふれさせていただきます。

地区内のそれぞれのクラブは長い年月をかけて1業種1会員制や四大奉仕という型、例会重視などの習慣を積み重ね、ロータリーならではのスタイル（様式）を創り上げてきました。そのスタイル（様式）に今危機が訪れています。私達は何を変えてはならず、何を変えてゆかねばならないのか。各クラブで徹底的に討論してほしいと願っています。

討論の過程でクラブの持つ「物差し」がより高い質を持ち、それがクラブのスタイル（様式）に磨きをかけることにつながってゆくのです。それぞれのクラブが独自の「物差し」を創る過程の中でクラブに意欲がみなぎります。会員個々人が磨かれ、結果として地域社会が生き生きしてくるのです。

私達の手によって地域を育み、大陸をつないでゆくではありませんか。

ご静聴ありがとうございました。

## 会 長 挨 拶



伊原清良 会長

本日は、ガバナー公式訪問例会です。ガバナーの織田吉郎様、本日はよろしくお願ひ申し上げます。ガバナー補佐の得居仁様、ご苦労さまでござ

います。クラブ会員の方々は、どうぞクラブ協議会への参加もお願いいたします。本日の11時よりガバナー懇談会と新入会員のレクチャーがありました。

懇談会では、ガバナーより貴重なご示唆を頂戴いたしました。レクチャーでは、中山ロータリー情報委員長はじめ関係各位に御礼申し上げます。

さて、昨日は「施餓鬼」の法要に生まれてはじめて参加して参りました。昨年までは母が参加していました。施餓鬼に参加してみて、ちょっとロータリー的な部分がありましたのでご報告させていただきます。

一つ目は檀家総代という存在です。そして二つ目は法話の内容です。

私の菩提寺は南花島の栄松寺で、臨済宗・大徳寺派です。いわゆる禅宗であります。清雪和尚が跡目をとっています。隠居には五十嵐義雄和尚がいます。82歳で、松戸東ロータリークラブの創立会員です。弟の五十嵐明道さんも松戸東ロータリークラブの重鎮であり知恵袋と言われています。栄松寺の檀家総代の一人で野々下さんがいますが、これ又松戸東ロータリークラブの会員です。檀家総代の人たちは、駐車場の案内や受付をしていました。墓地管理費や塔婆の代金など、ごったがえしててる中、野々下さんは受付の中で責任者をやっていました。

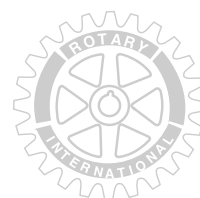
松戸ロータリークラブにも、檀家総代を親の代から勤められている方がたくさんいます。これも一種の社会貢献と言えると思います。高貴なる義務を全うしている訳で、今東西いたるところに、「無私・利他」の立派な奉仕が沢山あるんだと感じました。

法要は、お坊さんが11人。参列した檀家は250人。参列者の中には倉田寛之先生、元松戸ロータリーの耳鼻科の小倉孝先生の奥様。多分新盆だったはず。はるか横須賀に在住している中部小学校時代の同級生・神永君など……。法話では、お経の内容について説明を受けました。

四弘請願文の中に「衆生無辺請願度」があります。救うべき人はたくさん無限にいるけど、お願い助けて！という意味であります。元よりこれを説明できる資格は私にはありません。銚子ロータリークラブの地区幹事長をなさっている杉山俊明氏は大変な坊さんだそうですが……。お寺で聞いた、「衆生無辺請願度」の内容とロータリーの地区財団セミナーで見た、ポリオ撲滅のDVDの「THE FINAL INCH」の内容とが妙にダブリ、共に「慈愛の心」を感じた訳であります。

寺の境内からのミンミンと蝉の声。遠くから聞こえてくる、お経。お香の匂い。お坊さんも汗ふきふき。なんとなく、いい気持ちになってきて、青森の恐山みたいな荒涼とした砂漠の岩山が見え、ふっとここは娑婆なのか、あの世なのか、みたいな感覚になっていたところ、「煩惱」が頭をもたげてきました。ああ、明日は公式訪問だー。若い頃の煩惱はもっと色気があったはずなのに……。でも公式訪問というのはきっと楽しい煩惱なんだろうと感じています。

「雑感」 クラブ協議会の90分は意見のやりとり、流れなど宝石のようでありました。自分の会長の時のガバナーが織田さんで良かったと心から思いました。見識、慈愛、紳士度など別格であると感じました。日本人の正直さについて、外国人が自動販売機存在に驚いている。アメリカならすぐに販売機ごと強奪されてしまうような所にも設置されている。更に農家が野菜を無人で問題なく販売している。お施餓鬼に参加されていた人たちの情景を合わせ、日本人が失いかけている誇りを共に考えていける場としてのロータリーに感謝したいと感じた次第です。



## 幹 事 報 告



### 松田茂一 幹事

1. クラブ内、会議・連絡事項等の案内  
例会終了後写真撮影があります。  
例会終了後クラブ協議会があります。
2. 外部からの会議・連絡事項等の案内  
特にございません。
3. 他クラブ会報・その他  
活動計画書が柏南RCより届いています。
4. 例会変更の連絡  
特にございません。
5. その他報告  
特にございません。



推薦者 杉浦裕会員と  
新入会員 篠宮会員



織田ガバナーと  
新入会員 篠宮会員



山田会員と  
新入会員 篠宮会員



織田ガバナー  
得居ガバナー補佐  
伊原会長

## 新 入 会 員 ご 紹 介



[氏名]  
篠宮 功  
(シノミヤ イサオ)

[事業所名] (有)シノミヤホームテック  
[職業分類] 電気設備工事  
[所在地] 〒271-0087 松戸市三矢小台3-11-11

### [出席報告]

会員53名	義務会員44名	免除会員 9名
出席46名	義務会員39名	免除会員 7名
仮欠 7名	義務会員 5名	免除会員 2名

### [欠席者]

斎藤 重久君 田中 忠行君 島村 善行君  
大川 吉美君 川並 芳純君

本日出席率 90.20%

## ニ コ ニ コ B O X

土屋亮平君 / 織田ガバナーをお迎えして。猛暑の中の公式訪問、誠にお疲れ様です。体調に充分ご留意され一層のご活躍をご祈念致します。

伊原清良君 / 織田ガバナーありがとうございました。松戸ロータリークラブの文化を大切にします。

## 例 会 報 告

### [例会写真]



ニコニコBOX	当日 ¥20,000	累計 ¥245,000
財 団BOX	当日 ¥ 4,839	累計 ¥ 30,036

文責 / 太田原